

平成 27 年度 学校評価書（年度）

学校教育目標

豊かな人間性を育み、たくましく生き抜いていこうとする生徒の育成

〈今年度の重点目標〉

良さを認め合いながら、一歩前に出て活動できる生徒の育成



平成 28 年 2 月 17 日
大館市立北陽中学校

V 評価

A 学校運営の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
	良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
	おおむね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
	やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
	努力を要する		1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

I 組織運営

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期	おおむね良好	良好	責任と見通しをもった運営体制を整えるため様々な工夫を重ねている。まだまだ、改善を図らなければならないこともあるようだが、共通理解を図るために工夫してほしい。
	年度	良好	良好	特色ある学校づくりのため、職員一人一人が自覚をもち、積極的に組織運営に携わり成果をあげている。

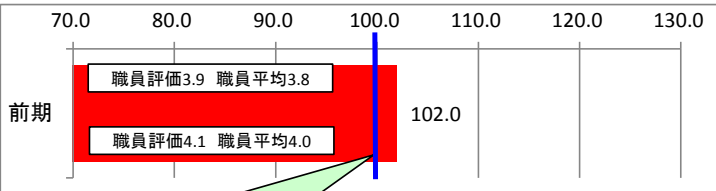
校自の改善価値の概要と学	<p>明確な運営・責任体制の構築については、会議の機能化を図ることで、業務担当から責任を持った提案がなされることを目指したが、職員相互の評価では職員会議についてが3.9、学年主任会についてが3.6となり、ほぼ、職員アンケート全項目の平均(3.8)と同様の数値となった。会議の精選を図ることで、日々の動きを活性化しようとしたが、提案の鮮度が落ちてから実際の動きが始まることで共通理解に深まりを欠いた面があった。毎週2回の打ち合わせを併用しながら、提案事項を効果的に提示する方法を模索したい。閉校事業については、これからが職員全体で分担を明確にしなければならない段階であり、適宜資料を提示しながら進めたい。私費会計処理、設備管理については、自己評価指数が職員平均を大きく上回る結果となった。いずれも定期的な点検を常に改善に生かしており、今後も継続したい。</p>
	<p>職員アンケート全体の平均値が3.8から4.0と向上したため、グラフでは下降しているように見える項目もあるが、「組織運営」に係るすべての項目において100を上回っており、学校全体として組織的な運営が行われていたと判断できる。特に、学年の予算の執行については、帳簿処理をすべて事務職員が行うことで、職員の子供に向かう時間の確保に大きく結びついている。閉校とあわせて新設校の開校に向けての準備も進めなくてはならない状況で、特殊な業務をいくつも抱えながらの運営であったが、前向きな評価結果に職員の気概が表れているととらえている。</p>

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 明確な運営・責任体制	(1) 分掌組織の責任ある運営と協働	職員会議・運営委員会・校務部会の機能化	3	4
		学年主任会の運営		
2 閉校関連事業の推進	(2) 関係諸機関との連携	閉校記念誌、閉校記念式典、思い出を語る会	2	3
3 事務処理の適切化と設備管理	(3) 諸会計の適切な執行と処理 (4) 消耗品等の制御・調整、設備補修	連携と点検による適切な学年等私費会計の執行	4	4
		消耗品費及び設備補修費の明確化と計画的な執行		

[1に関連するデータ]

(1) 分掌組織の責任ある運営組織と協働体制

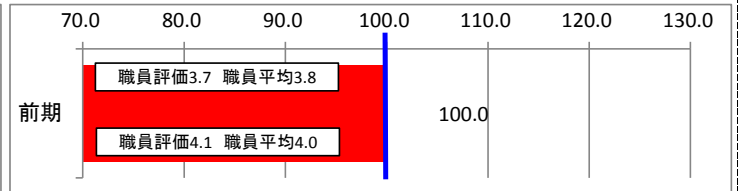
■ 校務部会、運営委員会、職員会議が機能的に推進され、各担当から見通しをもった提案が行われたか？



【アンケート種別】 ○生徒 □保護者 ■教職員

【5段階評価】 5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題

■ 学年主任会は、学年間の共通理解、共通実践に役立っていたか？



グラフは、職員アンケート全項目の評価平均値を100としたときの、当該項目の評価指数を表している。つまり、指数が100を超えていれば、職員は他の施策よりも良好と判断しており、100に届かない場合はその逆ということになる。

【職員アンケート自由記述】

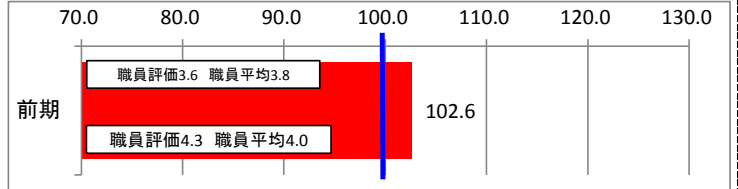
●主任会の内容について、学担側から積極的に情報を得る必要があった。

○学年主任会は、業務を見通したり確認したりするうえで効果が大きいので、統合後も継続してほしい。

[2に関連するデータ]

(2) 関係諸機関との連携

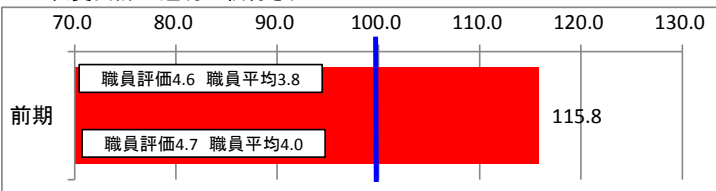
■ 閉校に係る事業が、計画的に推進されていたか？



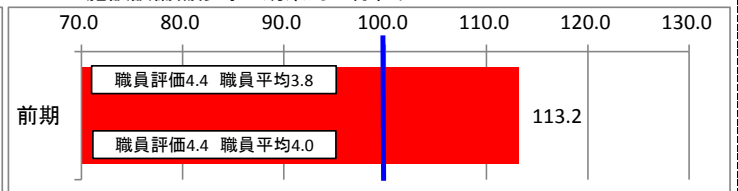
[3に関連するデータ]

(3) 諸会計の適切な執行と処理

■ 事務職員との連携や見通しを持った点検が行われ、私費会計が適切に執行されていたか？



■ 配当予算が適切に周知され、消耗品の調整及び施設設備補修等が効果的に行われていたか？



ア 学校運営の状況

II 教師の研修

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の教育活動のレベルアップのために、教職員の研修が活発に行われている。	前期	おおむね良好	○生徒の実態を生かした授業力向上を図る研修を推進しており、特に3年生においては5教科すべてでTT体制による指導をするなど、全職員の共通理解のもと授業力を向上するための相互授業参観や研究会を積み重ね、成果を上げている。
	年度	おおむね良好	○研究会や学校訪問等で、言語活動を軸とした授業構成や全教科共通の実践事項への取組の成果が検証できたこと。こうした取組が生徒の主体的な学習態度や意欲的な発表を生み出している。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○統合により学習経験の異なる生徒が学習集団を形成することから、生徒の実態を生かした授業力向上を図る研修を推進している。学力向上に関しては、統合以前の各校のデータから学習の定着度の差が大きいと判断し、生徒一人一人の学力向上をねらった少人数学習を可能な限り行うこととした。3年生においては5教科すべてTT体制を組み、学習形態を工夫しながら実践しているところである。成果の手ごたえはまだ得られていないが、今後の諸検査データの分析により判断していきたい。研究の軸である言語活動の充実に関しては、今後も継続的な指導が必要である。生徒のアンケート結果にあるとおり、自分の考えや思いを発表する時間は確保されているものの、「話形やハンドサインを使って発表をつなげている」と答えた生徒の評価は他の項目と比べて低かった。個々の積極性の違いはあるものの、意見交流の意図、話し合う価値のある話題(あるいは価値ある発問)、ゴール(よりよい答え)に向かって高め合っていく発表のつなぎ方などを、教師が熟考した上で実践していくことで成果が現れると考えている。ゆえに教師の授業力(コーディネート力)を高めるために、全職員の共通理解のもと相互授業参観や研究会を積み重ねていき成果に結びつけたい。生徒理解に関する研修はアセス結果の分析とそれに基づいた対応について指導主事を招いて行った。異校種との連携に関しては、3小学校はもとより大館高校の教諭による授業参観及び研究会への参加が実現した。今後も他分掌と協力して推進していきたい。</p> <p>○後期は、研究会や学校訪問等で言語活動を軸とした授業構成や全教科共通の実践事項への取組を検証することができた。授業を参観された指導主事や訪問された方からは、生徒の主体的な学習態度や意欲的な発表などを大いに褒めていただいた。生徒アンケート「自分の考えや思いを伝える力が育っている」の項目や授業アンケート「意欲的に授業に取り組んでいる」の項目も向上している。また、保護者アンケートでの教科指導に関する肯定的な回答の割合が前期よりも6%増加した。これは学校での学習指導を十分と感じている生徒が増えたためと捉えている。これらの結果と年度当初の生徒の状態を比較すると、学習に対する意欲や考えを伝える力は格段に向上した。これは全職員が志を一つにして授業改善に努めてきた成果である。一方、課題も明確になった。授業アンケートからは「話形やハンドサインを使った発表」に多少伸びはあったものの他の項目に比べると発展途上である。また、教科間での評価の差が見られる。教師自身が評価を真摯に受け止め、他者から学ぶ姿勢をもち続けることが大事である。その機会として今後も相互授業参観を継続していきたい。そして、日常の授業の成果が学力向上にあらわれるように指導を工夫していきたい。</p> <p>○生徒理解に関しては、日常的な情報交換を生かし、適切に対応する体制ができています。異校種間の交流は互いに授業参観をし、意見交流する機会を得た。小学校、中学校を卒業した後を見据えて系統的に指導する必要性を改めて確認することができ、具体的な指導内容まで話し合うことができた。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 授業改善の推進	(6) 個に応じた指導と成果の確認	少人数学習の推進及び諸検査データの分析と活用 授業アンケートの実施と活用 *前期は評価対象から除外 全教科での言語活動の実施と充実	3	3
	(7) 研究計画の策定と検証			
5 研修の実施及び活用	(8) 子どもをとらえる見識の向上	教育相談についての研修の実施と効果的相談体制づくり	3	3
		小学校、高等学校の実態理解と指導への活用		

(○生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価【5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題】

[4に関連するデータ]

- 個に応じた指導や少人数学習の推進が図られ、効果をあげることができたか。
- 各教科で言語活動の実施と充実が図られていたか。
- 授業では、自分の考えや思いを周囲に伝える力が育っていると思いませんか。
- 全教科で自分の考えを発表する時間は確保されていましたか。

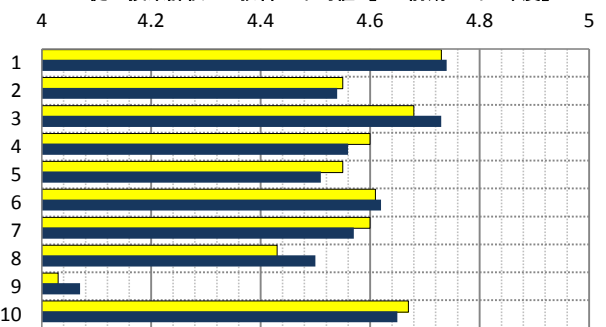
H27前期	年度
3.8	↓ 3.6
3.4	↑ 3.8
3.9	↑ 4.1
4.5	↑ 4.6



○生徒による授業評価

- 1 学習課題は、学習することやゴールがわかりやすいように示されていましたか。
- 2 学習課題や質問は、自分の考えや思いがもちやすいものでしたか。
- 3 黒板には、50分ものさしや学習内容がわかりやすく示されていましたか。
- 4 発表や話し合い、意見交換などの友達との活動がありましたか。
- 5 授業はテンポよく進み、できた人が先に進めるように指示されていましたか。
- 6 学習したことをまとめたり、身に付けたことを使って練習したりする時間が確保されていましたか。
- 7 学習内容はわかりやすいですか。
- 8 あなたは、いつも意欲的に授業に取り組んでいますか。
- 9 話形やハンドサインを使って、発表をつなげていますか。
- 10 話し合いや友達との活動は学習の理解に役立っていますか。

生徒の授業評価 全教科の平均値【上:前期 下:年度】



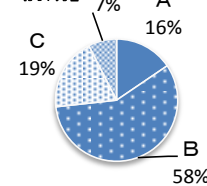
□学校での教科指導について、お子さんはどのように言っていますか。

- A どの教科も十分指導されている。
- B どちらかというようによく指導されている。
- C どちらかというところあまりよく指導されていない。
- D どの教科ももっとよく指導してほしい。

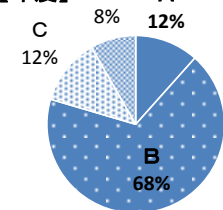
H27前期	年度	
A	29	21
B	108	123
C	36	22
D	14	15

(単位:人)

【H27前期】



【年度】



[5に関連するデータ]

- 教育相談の研修と効果的な相談体制づくりがなされていたか。
- 小学校、高等学校との連携を図り、指導に生かすことができたか。
- 悩み、困りごとを友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いませんか。

H27前期	年度
3.5	↑ 3.9
3.4	↑ 3.8
4.2	↓ 4.1

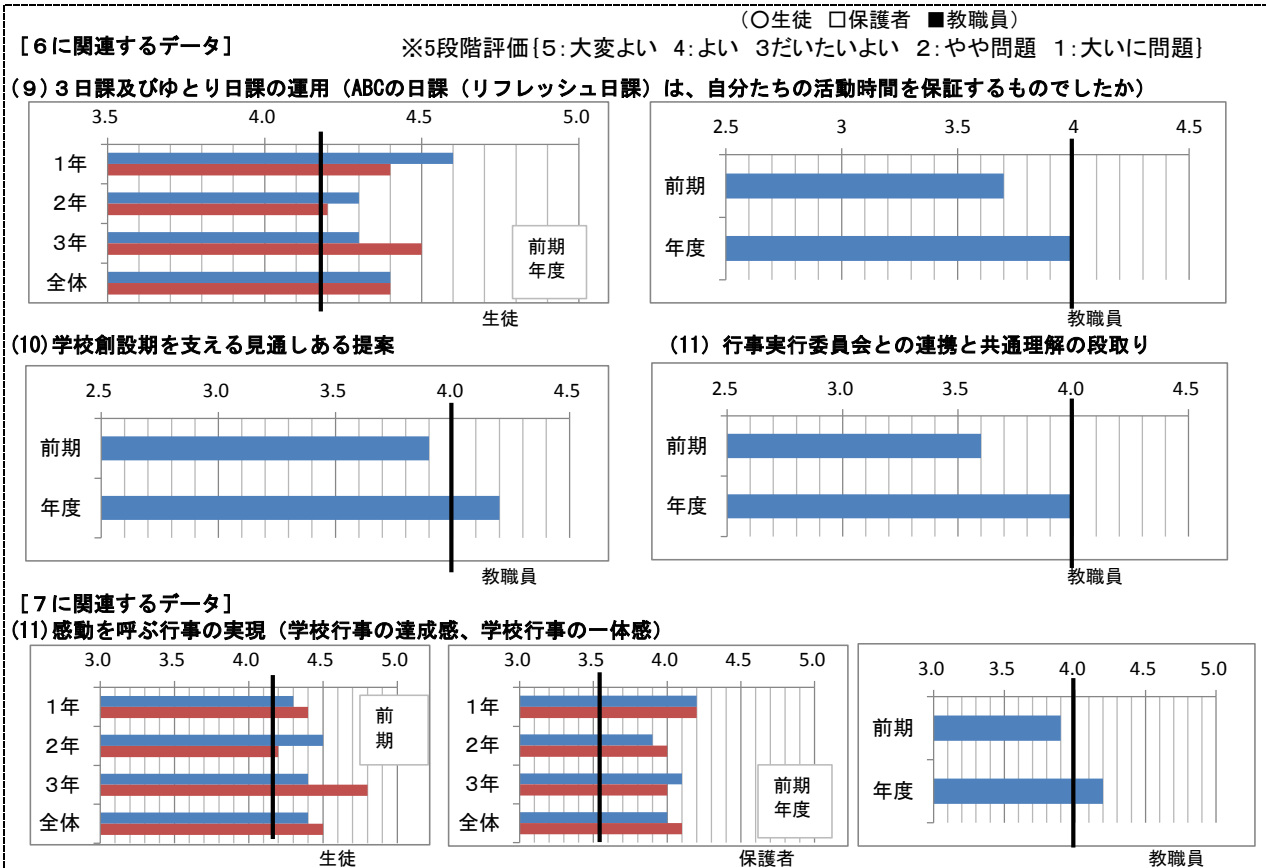


ア 学校運営の状況

Ⅲ 特色ある教育活動

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
地域に根ざした特色ある教育活動に、誇りと気概をもって取り組んでいる。	前期	おおむね良好	良好	○北陽中の礎を築こうとする教育活動に取り組んでおり、①行事・会議等の提案の仕方、②保護者への情報提供を進めており、さらに職員・生徒が一丸となって地域・保護者とともに歩む学校を創り上げていこうとしている。
	年度	良好	良好	○統合して初めての学校祭では、子どもたちの活躍がすばらしく、生徒一人一人から達成感や成就感が感じられた。今後の課題としてあげられている「生徒一人一人が活躍できる場面」を意図的に設定し、自信をつけさせていくとの構想のようで今後期待している。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○開校初年度、生徒・教職員は多忙の中、誇りと気概を失わず、「北陽中の礎を築いていこう」という意気込みをもって教育活動に取り組んでいる。しかしながら、地域からの理解・協力は得られているものの、保護者へは、その思いが十分に伝わっていないようである。これらの状況を鑑み、「特色ある教育活動」を推進して行くために、今後二つの課題に取り組んでいく。一つめは、行事・会議等の提案の仕方である。行事においては、事前の声かけはもちろん、生徒が主体的に活動できるよう内容を精査していきたい。また、会議においては、ポイントを絞り、協議事項と確認事項を分類した形で話し合いを進め、時間短縮に努めたい。二つめは、保護者への情報提供である。各学年の通信や学校報で情報を提供しているものの、十分かどうか検討していく。配布物が保護者に届いているのか、情報提供機会が少ないのかを確認しながら検討していきたい。</p> <p>「産みの苦しみ」は予想をはるかに越えたものであるが、「気付き」「見通し」「実践」「協力」を大切にしながら、さらに職員、生徒が一丸となって、地域・保護者とともに歩む学校を創り上げていきたい。</p> <p>○評価指標「特色ある教育課程の編成」、「学校行事の計画」ともに、前期の数値を上回っている。生徒の学校生活に向かう姿勢や職員室の雰囲気からも、良好な状態にあることが実感できた2学期である。数値を下げた2年生のデータについても、生徒会をはじめ、すべての面で3年生からリーダーを引き継いだことによる戸惑いや忙しさから考えている。これについては経験を積み重ねていくことで、達成感や成就感、自己有用感が得られるような指導に努めていきたい。今後の課題としては、生徒一人一人が活躍できる場面を意図的に設定し、自信をつけさせていくことにあると考えている。学級委員会、部活動などすべての教育活動で、子どもたちの可能性を見定めながら教育活動を展開できるよう連絡・調整をしていきたい。また、保護者の協力を得られるよう、引き続きこまめな情報提供や配布物のチェックを行っていききたいものである。</p> <p>手探り状態の学校創設期であったが、管理職の指導の下、職員が一丸となって取り組めたことは、苦しいながらも楽しい時間を共有できている。この勢いを持続させ、北陽中のさらなる発展につなげていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 特色ある教育課程の編成	(9) 生徒の活動を支える日課の工夫	3日課及びゆとり日課の運用	3	4
	(10) 学校創設期を支える見通しある提案	職員会議案件の年間予定の提示と調整		
7 学校行事等の計画	(11) 感動を呼ぶ学校行事の実現	行事実行委員会との連携と共通理解の段取り	3	4
		地域連携活動の継続(教育課程及び行事予定への位置づけ)		



イ 生徒の状況

IV 確かな学力、基本的学習習慣

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
意欲的に授業に臨み、基本的学習習慣を身に付けながら、確かな学力を身に付けさせている。	前期	おおむね良好	○子どもたちが主体的に自分に合った学習をしていけるようになることが学力向上につながるため、小学校と連携しながら三年間を見通した指導を目指し、授業の充実を図ろうとしている。
	年度	おおむね良好	○家庭学習については、主体的に学習しようとする意欲が弱いようで、保護者はもの足りなく感じている状況である。先生方は生徒個々の実態を分析し、学習目標を掲げて取り組んできているので、徐々に成果が現れ始めているようで、さらに力のつく授業を推進していただきたい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○「主体的な学習態度」に関しては、生徒や職員の評価に比べて保護者の評価が低い。特に家庭学習への取組みについての評価が低く、さらに自由記述からも「勉強の仕方が分からない」「勉強時間よりも勉強の質が大切」などの記述が見られた。家庭学習の取組み方については、子どもたちがより主体的に自分に合った学習をしていけるようになることが学力向上につながるため、小学校と連携しながら、3年間を見通した指導が必要である。</p> <p>○「授業の充実」に関しては、教科別アンケートから教科によってばらつきがあることが分かった。また、言語活動の充実に関しての評価が低かった。統合した三校の生徒の実態が大きく違い、1学期は基本的学習習慣に指導の重きがいつてしまったことが原因の一つだと考えられる。1学期後半からは、ハンドサインや話型の活用がより有効となるように、「意見のつなぎ方」を見直して指導をしてきているので、今後とも継続して、全職員が共通実践できるような取組みを研修部と連携しながら押し進めていきたい。</p> <p>○学習委員会と連携しての「202や大作戦」等の取組みにより授業に向かう子どもたちの態度は個人差はあるものの全体的には良くなってきている。しかし、家庭学習については、各教科で学習の仕方についてアドバイスしたり、ノート展などを実施して力のつく学習の仕方を広めたりする取組等をしてきたが、主体的に学習しようとする態度には結びついていない。1年生からの系統的な指導だけでなく、学級活動を通して学習することの意義についても指導する必要がある。</p> <p>○「授業の充実」に関しては、生徒たちにとってわかりやすく、力のつく授業を目指して様々な研修を行ってきた。また、言語活動の充実を図るために生徒たちの実態からどんな指導をしたらよいのかを細かく分析し、毎月学習目標に掲げて取り組んできた。全職員で同じ目標に向かって取り組んできた成果が生徒たちの姿となって現れ始めている。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 基本的学習習慣	(12) 主体的学習態度の育成	各教科共通の「学習習慣項目」の提示と実践 家庭学習充実のための働きかけ(PUN、各教科の学習アドバイス、ノート展)	3	3
9 確かな学力	(13) 授業の充実	1単位時間の効果的なコーディネート(50分ものさし、テンポのよい授業、まとめの確保) 徹底した繰り返し学習(ドリル学習)の実施 ハンドサインや話型を手がかりにした言語活動の充実	3	3
	(14) 活用する力を身に付けるための取組	コラム学習や全校言語活動による一人一人の表現力の向上		

※5段階評価(5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題)

主体的学習態度の育成

対象	前期	年度
家庭学習(職員)	3.8	3.9
学習習慣(職員)	4.2	3.9
家庭学習(生徒)	4.2	4.2
学習習慣(生徒)	4.3	4.2
家庭学習(保護者)	3.4	3.5
学習習慣(保護者)	3.7	3.7

授業の充実

対象	前期	年度
1単位時間のコーディネート(職員)	3.8	3.8
言語活動の充実(職員)	3.8	3.3
言語活動の充実(生徒)	4.1	3.9
言語活動の充実(保護者)	3.4	3.5

テンポのある授業(生徒)

まとめの確保(生徒)

写真
上：よりよい学習の仕方を
目指して！ノート展
下：授業の様子

グラフ

前期 ■

年度 ■

Ⅰ 生徒の状況

V 自主的・自律的な生活,望ましい生活習慣

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒一人一人の心身の状態に目を向けながら、明るく心のこもった挨拶など規律ある落ち着いた生活を実現している。	前期 おおむね良好	おおむね良好	〇あやめ運動が街頭指導のコメント、校外学習、地域の運動会等では生徒のあいさつが地域を明るくしていると言われている。ノーメディアの達成率も高く良好な状況にある。
	年度 おおむね良好	おおむね良好	〇データから『ノーメディア』の達成度や朝食の状況については良い傾向を示しているが、「就寝時刻」が遅い生徒が多いのが気がかりである。また、2年生が「約束を守る」項目で数値が低い。あやめ運動を通して、北陽中の礎を築いていこうという生徒たちの意識を高めさせてほしい。
策 自己評価の概要と学校の改善	<p>〇「あやめ運動」に関する項目では、生徒4.1と評価が高かった。街頭指導のコメントや校外学習、地域の運動会等では北陽中生の挨拶が地域を明るくしてくれるとお褒めの言葉をいただいた。一方で、以前に比べて元気な挨拶が少なくなったという声が保護者3.6、教職員3.3と低い評価であった。今後も生徒会執行部の主体的な活動を促しながら、月ごとに重点項目を示していつでも・どこでも・誰にでも・ひとりで元気な挨拶ができるように生徒を育てていきたい。</p> <p>〇「夜9時以降ノーメディア」の達成度は半数以上で、達成できていない生徒は30名いる。そのうち半数が2年生。達成できていない生徒は、就寝時刻が遅くなることも懸念される。就寝時刻が午後11時以降の生徒は3年生が半数近くになっている。家庭学習の始める時間をできるだけ早くして、早めの就寝を呼びかけていきたい。</p> <p>〇「あやめ運動」では、多くの生徒たちがひとりで力強いあいさつができるようになってきた。生徒会執行部や生活向上委員会、職員室への入室のあいさつ等の働きかけが少しずつ効果を上げていると思われる。また、約束を守る項目では、2年生で低い評価になり、前期よりもわずかながら低い評価になった。今後とも様々な機会を通して規律ある生活態度を促していきたい。</p> <p>〇「ノーメディア」の達成度は強調週間やチェック日が設定されていることで、かなり意識して取り組んでいる。信憑性にやや疑問は残るものの、ノーメディアを実施していくためには、今後とも家庭と連携を図りながら啓蒙活動をしていきたい。</p> <p>〇「就寝時刻」はやや遅い時刻に移行してしまいが、生徒達は遅刻者もなく、朝は早く起床している様子である。ただ睡眠時間が短いと体調を崩しがちになるので、遅くても11時には、就寝するように継続的に呼びかけていきたい。</p> <p>〇朝食については、9割以上の生徒が「ほとんど食べている」「毎日食べている」といった非常に良い傾向を示している。</p> <p>〇教育相談と生徒理解では、学年間や職員会議で生徒の情報交換が随時行うことで共通理解が図られたり、教育相談担当が窓口となってSCとの面談を計画・実施したりすることで、前期に比べて向上した。今後とも機を逸することなく気になった生徒や事柄を忌憚なく話し合える職員集団でありたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
10 規律ある学校生活	(15) 集団生活のきまりの理解と遵守	「あやめ運動」の推進と自律心の育成 生徒指導共通実践事項の設定と実施 地域や小学校と連携した安全指導	3	3
11 心身の健康の保持増進	(16) 健全な生活習慣	保護者を巻き込んだノーメディアデー運動の定着 早寝、早起き、朝ごはんの啓蒙と体力向上の働きかけ	3	3
12 教育相談の実践	(17) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解 (18) 理解と指導をつなぐ「見立て力」の向上	いつでも、どこでも教育相談の推進 多様な手立てによる生徒理解 定期的な生徒を語る会と関係機関と連携した事例検討会の実施	3	4

(○生徒 □保護者 ■教職員)

【10に関連するデータ】 ※5段階評価[5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題]

(15) 集団生活のきまりの理解と遵守

- 〇「あやめ運動」を意識した学校生活を送ることができましたか。
- 〇学校生活のきまりを、しっかり守ろうとしましたか。
- 「あやめ運動」(元気なあいさつ、やくそくを守る、めあてをもって)により、規律ある学校生活が実現していると思いますか。
- 小学校や地域と連携した安全指導が、効果的に進められていると思いますか。
- 生徒に「あやめ運動」を意識させる手立ては適切だったか。
- 生徒指導共通実践事項についての共通理解が図られ、全校体制で指導の徹底が図られていたか。
- 安全指導を推進する上で、小学校や地域と連携を図っていたか。

	H27前	H27年
4.1	↓	4.0
4.4	→	4.4
3.6	↓	3.5
3.7	↓	3.6
3.3	→	3.3
3.7	↑	4.1
3.8	↑	3.9

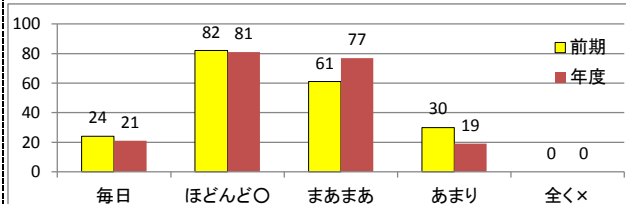
※校外生徒指導部PTAによる街頭指導のコメント

〇約半年間の街頭指導でしたが、生徒の大きな事故やケガ等がなく良かったと思います。
私が担当した場所は国道7号線の交差点のため、交通量が非常に多いことを実感しました。結構スピードを出して走行している車も少なくないので、これからも生徒だけではなく、私達大人も気をつけなくてはならないと思いました。

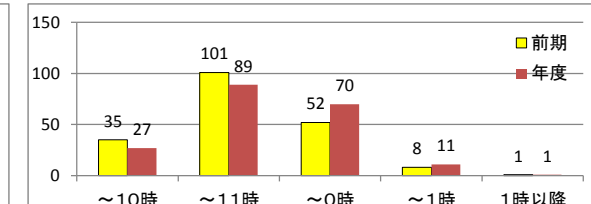
【11に関連するデータ】

(16) 健全な生活習慣

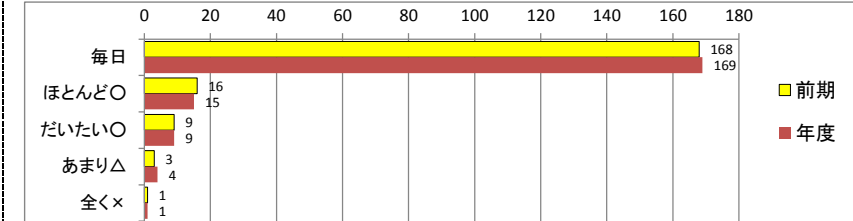
〇あなたの「夜9時以降ノーメディア」の達成度は次のどれですか。(単位:人)



〇平日の就寝時刻は次のどれですか。(単位:人)



〇毎日朝ごはんを食べますか。(単位:人)



- お子さんや各家庭に対するノーメディアデーの働きかけは適切ですか。
- 学校の取組(チェックカードなど)は、「早寝、早起き、朝ごはん」の意識化に役立っていますか。
- 「ノーメディアデー」の取組について、家庭の理解を得る働きかけが行われていたか

	H27前	H27年
3.3	→	3.3
3.3	↑	3.4
3.6	↑	3.8

【12に関連するデータ】

(17) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解 (18) 理解と指導をつなぐ「見立て力」の向上

- 〇悩み、困りごとを、友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いますか。
- 〇より良い学級、学年にしようと思えましたか。
- 担任やSCによる教育相談が機を逃さずに行われていたか。
- 多様な手立てによる生徒理解が行われていたか。
- 生徒を語る会や事例検討会が確かな状況把握をもとに行われていたか。

	H27前	H27年
4.2	→	4.2
4.2	→	4.2
3.9	↑	4.1
3.9	↑	4.1
3.7	↑	4.0

イ 生徒の状況

VI 思いやりの心,たくましい心

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
出身校に対する誇りを基盤としながら、お互いの良さを認め合い、協力し合うことができる、豊かな人間性を育てている。	前期	良好	良好	○朝の会や帰りの会、道徳、学活、面談など学級担任・副担任が学級で生徒の心に寄り添った指導を続けており、観察し、励ますことで新生北陽中の行事を創っている。
	年度	良好	良好	○おとなしい子どもが多い少人数の矢立中学校出身の子どもたちが、新しくスタートした『北陽太鼓』では二中、花中の生徒を引っ張ってがんばっている姿が頼もしかった。生徒会活動も2年生にバトンタッチされたが、今後2年生は最上級生として下級生をリードしてゆく学年になってほしい。副担任制を導入したことが、生徒から高い評価を得ているとのことである。さらに生徒たちにとって良い雰囲気、学校づくりをお願いしたい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○今年度は副担任制を導入し、朝の会や帰りの会、道徳・学活、面談など、可能な限り複数の教師が学級に入り、心に寄り添った指導を心がけている。より多くの視点から生徒を観察することで、生徒のよさを見つけたり、日々の変化に気付いたりすることができつつある。朝・帰りの会スピーチや、学級の課題等を発表する場などを取り入れたが、話し合いとまでは至っていない。話し合い活動を取り入れた学活の時間を定期的に設定していきたい。</p> <p>○前期の学校行事では、生徒自身の力で企画を考えたり、取り組み方を工夫したりする場面を意図的に設定することができ、生徒の達成感の数値も高い。北陽中初年度ということで、人間関係も手探りしながらの活動であったが、生徒・保護者双方とも、満足度の高い行事になっていったと思う。2学期の大きな行事である学校祭では、三校の伝統を生かしつつ、新生北陽中の行事を創っていくのだ、という気概をもたせ、より生徒の主体性を生かした行事にしたい。</p> <p>○生徒会・委員会活動は、旧二中のものをベースにして、三校の生徒代表が中心となって取り組んでいる。経験値の差から、リーダーシップが曖昧になってしまった、という先生方からの意見は、まさにその通りである。一人ひとりが責任感をもち、主体的に活動できるように、教師側からの支援の仕方を工夫していきたい。</p> <p>○副担任制は、先生方のがんばりもあって、3学年とも4、5以上と、生徒から高い評価を得ている。できるだけ複数の目で生徒の様子に目を配り、支援していくことを継続したい。朝の会や帰りの会の工夫は、特に1年生の成長が大きい。自由に発言できることは、学校生活すべての基本なので、短い時間でもできるだけ生徒が活躍できる場を設定したい。</p> <p>○学校祭は、生徒からも保護者からも大変好評を得ることができた。「統合してよかった」と思ってもらえる行事になったと思う。地域防災活動は、小学生の参加者が増え、3地区とも活動の意義を理解してくださる方が増えて来たように思える。このようなことを積み重ねて、地域との信頼関係をより強固なものにしていきたい。</p> <p>○生徒会が2年生に代替わりした。北陽中として初めての役員選挙を経て選ばれたリーダーを元に、学校をより良くしようと奮闘中である。やる気を褒め、支援していきたい。フォロワーは、まだまだ成長過程にあると思う。特に、学年・学級でのリーダーを育てたい。学級委員長を中心として、学年・学級が一体となり取り組む雰囲気を作ることができれば、生徒会全体も盛り上がりていくと思われる。「3年生を送る会」「卒業式」を立派に作り上げることを目標として定め、生徒のやる気を促していきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
13より良い集団生活を目指す学級活動	(19) 本音で語り合える学級づくり	TTによる学級経営の推進(副担任制度の導入と活用) 朝の会、帰りの会の工夫、話し合い活動の充実	3	3
	(20) 学校行事を生かした「高め合う学級づくり」	リーダーを中心とした学級集団の育成(リーダーシップ、フォロワーシップの育成)		
14校史1ページ目を刻む気概ある生徒会	(21) 成し遂げる気概にあふれた学校行事	生徒会による生徒主体の学校行事 新しい校風を創る日常活動の創意工夫	4	4
	(22) 創造的委員会活動	定期集会(朝会)での委員会発表の工夫		

[13に関連するデータ]

※5段階評価 [5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題]

(19) 本音で語り合える学級づくり

	H27後	H27前	平均
○朝の会や帰りの会で活躍する場面がありましたか。	4.0↑	3.9	4.2
○悩み、困りごとを友達や先生に相談できる雰囲気がつくりだされていると思いますか	4.1↓	4.2	
○担任と副担任は、協力して学級のために支援をしてくれましたか	4.6↓	4.7	4.0
■朝の会、帰りの会は、生徒の自主性を育てる工夫がされていたか。	4.0↑	3.6	
■副担任制を活用した学級経営が図られていたか。	4.2↑	3.9	



工夫が見られた「テーマ集会」

(20) 学校行事を生かした「高め合う学級づくり」

	H27後	H27前	平均
○お互いの良さを認め合いながら、協力して学級づくりに励むことができましたか	4.4↑	4.3	4.2
○よりよい学級、学年にしようと努力することができましたか	4.3↑	4.2	
■リーダーを中心とした学級集団づくりの育成が図られていたか。	3.6↑	3.5	4.0



一体感を表現した「北陽中祭」

[14に関連するデータ]

(21) 成し遂げる気概にあふれた学校行事

	H27後	H27前	平均
○学校行事での達成感は何の程度でしたか。	4.5↑	4.4	4.2
□学校行事は、学級や学年が一つにまとまって活躍できるものでしたか	4.1↑	4.0	
□保護者の皆さんと一緒に創り上げる学校行事になっていましたか。	3.5↓	3.7	3.6
■生徒会による生徒主体の学校行事が図られていたか。	3.8↑	3.7	



地域のみんなで防災活動(冬季)

(22) 創造的委員会活動

	H27後	H27前	平均
○よりよい学校を作ろうと、生徒会活動に積極的に取り組みましたか。	4.0→	4.0	4.2
○他の人の役に立つ行動や他の人を思いやる行動ができましたか。	4.2↑	4.1	
■新しい校風をつくる日常活動の工夫がされていたか	3.5↑	3.4	4.0

◇8月の地域防災活動への参加状況(人)

生徒	地域住民	小学生
184	190	47

◇1月の地域防災活動への参加状況

生徒	地域住民	小学生
183	90	109

ア 学校運営の状況

Ⅶ 保護者・地域との連携

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
新設された学区において、保護者地域との信頼関係を積極的に構築するとともに、具体的連携の基礎を築いている。	前期	おおむね良好	○統合した3地区4,500世帯に学校報を配布するシステムを構築し、生徒たちにボランティア活動の意義を自覚させ、PTA会員の親睦や融和を図り、生徒に積極的な活動をさせるようにしている。
	年度	良好	
の自己評価の概要と学校の	○統合した3地区約4500世帯に学校報を配布するシステムを町内役員の協力を得て、構築することができた。PTA活動ではPTA会員の親睦と融和をかねて、レクリエーションや懇親会を開催した。また、子どもハローワークの積極的活用を図り、生徒は年2回以上参加することを目標として取り組んでいる。矢立小学校の運動会のボランティア活動を契機に矢立地区の方から感謝の手紙をいただいたり、激励会に小学生が応援に駆けつけたり、地域の方との交流も生まれている。夏休み中に行った防災活動では各地区によって特色ある活動が行われた。町内によって、夏祭り前の除草活動を町内の方と一緒に参加したり、小学生と共同でクリーンアップをしたりして、地区の実情に合わせた活動を行うことができた。一部に活動日を忘れて参加しない生徒もいたため、活動の意義を自覚させ、責任をもって活動できるように事前の働きかけを大切にしていきたい。 ○10月に開校記念式典を市や地域の来賓の方々等、多くの皆様に見守られ盛大に行うことができた。併せて開催した学校祭においても、保護者の方に協力をいただき食堂を開設し、多くの参観者をお迎えして成功裡に終えることができた。学校報の配付は地域の方の協力により、スムーズに行うことができた。また、冬の防災活動は夏の活動の反省を生かし、活動場所と内容を町内会長さんと相談しながら、町内の実情に合わせた活動を小学生とも連携しながら行うことができたことが大きな収穫である。沖縄県嘉手納中生との交流会事業としてきりたんぼ鍋を調理して味わったが、今年は三地区の婦人会の皆様にも協力をいただき、さらに終了後にお別れ集会にも一緒に参加してもらい、生徒たちに励ましのお言葉をいただいたことも貴重な体験であった。さらに、子どもハローワークには、延べ220名以上の生徒が参加している状況である。今後も生徒の活動を後押しできるように校内の支援体制を整えていきたい。		

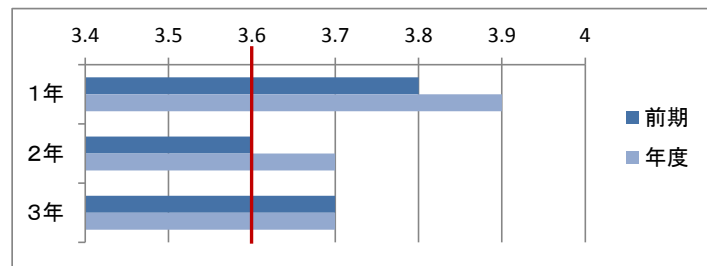
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
15 情報の発信の工夫	(23) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信	統合3校区を網羅する学校報配布システムの構築と運用	4	4
16 地域の教育力の活用	(24) 統合PTAの融和と新生PTA創設の支援	PTA活動への積極的支援と働きかけ	3	4
	(25) 「子どもハローワーク」の積極的活用	校外での活動による新生中学校の積極的アピール		
	(26) 地域連携委員会の立ち上げと運営	3地区の地域行事に対する参加計画の立案 防災活動を柱とした地域ボランティア活動の推進		

[15]に関連するデータ

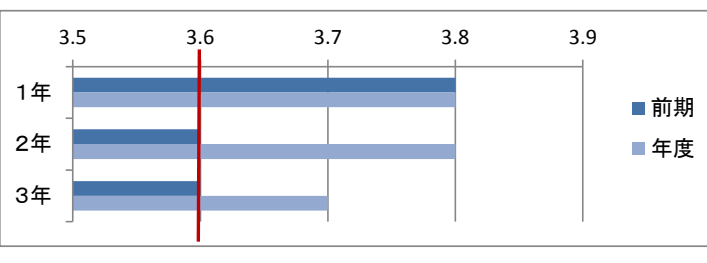
(23) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信

【□保護者の評価】(評価平均3.6)

「学校報を通して、学校の様子が地域全体に効果的に発信されていますか？」



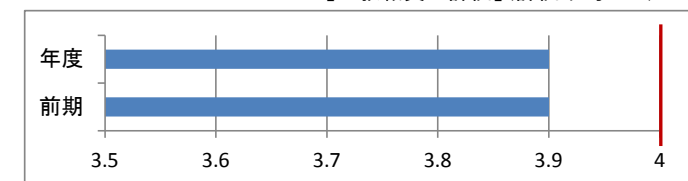
「学校だより等を通して、北陽中の良さを感じることができていますか？」



[16]関連するデータ

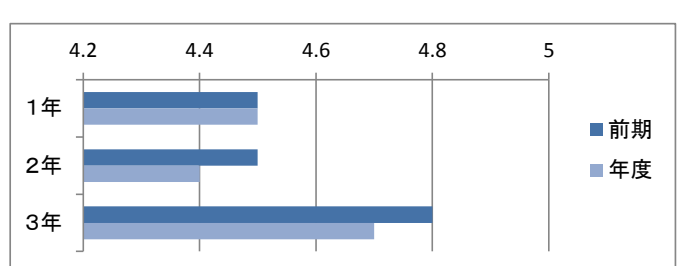
(24) 地域の教育力の活用

【■教職員の評価】(評価平均 4.0)



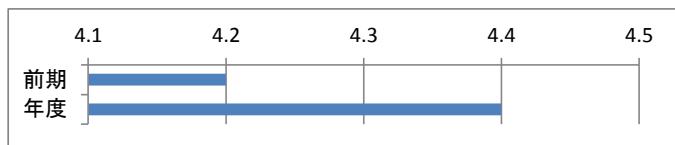
【○生徒の評価】(評価平均4.2)

「学校報を配付する取組をどう思いますか？」

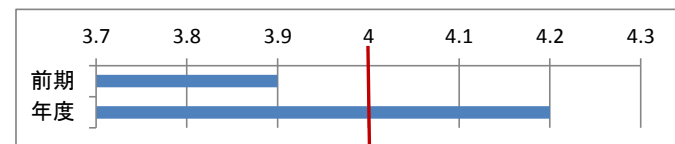


【■教職員の評価】(評価平均 4.0)

「学校報の全戸配付で学校の様子が紹介されていたか？」



「防災活動を柱とした地域ボランティアの推進が図られていたか？」



- 子どもハローワークの参加延べ人数 220名
- なべっこに協力してくれた三地区の婦人会 約30名
- 学校祭に訪問した地域・保護者の方 約450名